

日本学術振興会 科学研究費補助金基盤研究 (S)「海のころ、森のころー鯨類と霊長類の知性に関する比較認知科学ー」主催

京都大学 霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院 共催

西海国立公園九十九島水族館「海きらら」、西海国立公園九十九島動植物園「森きらら」後援

公開講演会

海のころ、森のころ

～イルカとチンパンジーのころを探る～

報告書

日時：2014年3月16日 13時30分～15時30分

場所：西海国立公園九十九島ビジターセンター 2F レクチャー室（長崎県佐世保市）

講演者と演題

森阪匡通（東海大学総合科学技術研究機構） 「イルカの社会とホイッスル」

足立幾磨（京都大学霊長類研究所） 「ことばの進化を科学する」

中原史生（常磐大学コミュニティ振興学部） 「イルカのころを探る～海きららでの研究から～」

友永雅己（京都大学霊長類研究所） 「イルカの心、チンパンジーの心」

2011年度から開始された科学研究費補助金基盤研究 (S)「海のころ、森のころー鯨類と霊長類の知性に関する比較認知科学ー」(研究代表者：友永雅己)は、ヒトを含む大型類人猿とイルカ類を中心とした鯨類の心の諸機能の比較認知科学研究を通して、心の進化における系統発生的制約と環境適応の役割について総合的に解明を目指して研究をすすめてきた。今回、その成果の一部を広く一般にお伝えすべく、長崎県佐世保市の九十九島水族館「海きらら」に隣接する西海国立公園九十九島ビジターセンターにおいて公開講演会を開催した。「海きらら」はイルカ類の研究をすすめるため、友永の所属する京都大学霊長類研究所との間に2012年6月に学术交流協定を結び、以来連携して研究を推進している。

今回の講演会では、研究班メンバーのうち4名が講演を行った森阪（音声と社会）と中原（個体識別と協力）はイルカ類の研究についての成果を、そして足立（共感覚、メタファー）はチンパンジーでの成果を、それぞれわかりやすく解説し、友永（顔認識、視知覚、道具使用）はチンパンジーとイルカでの成果を話した。

当日は、近隣の大学の学生や水族館、動物園のボランティアの方々、そして一般の市民の肩を含む約50名の来場者があった。各講演後にいくつか質問もあり、和やかな雰囲気の中で会

は進行した。

今後とも、研究成果の社会的還元の一環として、動物園・水族館等での講演会を積極的に開催し、PWS の出口の一つである動物園・水族館で活躍する博士研究員の育成の基盤となるよう努力したい。

文責：友永雅己（京都大学霊長類研究所）



講演会のポスター



ビジターセンター



会場風景



森阪匡通



足立幾磨



中原史生



友永雅己



「海きらら」のイルカたち
(写真はすべて田中正之（京都市動物園）撮影)